



R I. 第2620地区 静岡第2分区  
三島西ロータリークラブ

# 週報

第2091号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F  
TEL(055)976-6351 FAX976-6352  
例会場 静岡県三島市梅名393-1 プケ東海三島  
TEL(055)984-0120  
会長 栗原 達治 幹事 藤江 康儀



広重版画より 三島 朝霧

## 第2154回例会

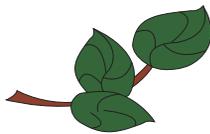
2017.3.14晴

### 市議会傍聴

#### 会長挨拶

副会長 西本和夫君

職業奉仕の一環として三島市議会の一般質問の傍聴。  
我がクラブ会員の藤江康儀君の議長姿はとても凛々しくて感動しました。  
いま国会で騒がしている「森友学園」のような質問やヤジが飛び交う事もなく静かな答弁には物足りなさを感じてしまいましたが、貴重な体験をする事ができ職業奉仕委員会ならびに藤江康儀君に感謝いたします。  
帰り際に豊岡三島市長にも声をかけていただきまして心遣いに感謝です。  
今後も個人ではなかなかできない見学や体験をよろしく願いいたします。



#### 出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	36/42	85.71%	40/42	95.24%
今回	23/36	63.89%	会員総数	47名

欠席者 宇田川君、遠藤(正)君、木村君、窪田君、鈴木(正)君、須田君、諏訪部(照)君、千葉君、長田君、花房君、前田(房)君、森崎君、山口君



2016~2017年度  
国際ロータリー会長  
ジョンF.ジャーム

人類に奉仕するロータリー

## ロータリー学友世界奉仕賞に緒方貞子氏

元国連難民高等弁務官であり、元ロータリー国際親善奨学生  
の緒方貞子氏に、2016-17 年度ロータリー学友世界奉仕  
賞が贈られました。

外交官の家族に生まれた緒方氏は、第二次世界大戦後、  
国際関係に関心を抱き、米国ワシントン D.C. のジョージタウン  
大学大学院へ留学。1951 年、日本人として 2 人目のロータリー  
国際親善奨学生となりました。

「ロータリー奨学生として留学中、社会奉仕の重要性を学ん  
だだけでなく、ロータリアンの方々との交流を通じて、見識を  
広げ、さまざまな経験ができた」と緒方氏は振り返ります。「『超  
我の奉仕』というロータリーのモットーに深い感銘を受け、以  
来、これが私の人生の指針となってきました」

カリフォルニア大学バークレー校から博士号を取得後、日本に  
帰国した緒方氏は、現在ロータリー平和センターがある国際  
基督教大学と早稲田大学で教鞭をとりました。その後、1991  
年に国連難民高等弁務官 (UNHCR) に就任。さらに、国  
連総会で日本代表、国連日本政府代表部とユニセフの執行  
理事会議長も歴任しました。

国連難民高等弁務官としての 10 年間、緒方氏は、湾岸戦争、  
ルワンダと旧ユーゴスラビアでの民族紛争、冷戦時代のアフ  
ガニスタン紛争における難民、そして旧ソビエト連邦から逃れ  
てきた難民を支援しました。

難民問題と国際的な安全保障には深い関係があると訴えるこ  
とで、国連難民高等弁務官事務所予算と人員を拡大。国  
連安全保障理事会との関係を強化し、その貢献が高く評価  
されています。「難民を守ることは、その性質上、論争的  
となり得る」と緒方氏。「行動を重んじるダイナミックな  
(UNHCR の) 活動を実行するには、主権国家に挑むことが  
求められます。これらの国は自国民以外、そして時には自国  
民への対応に迫られるからです」

2000 年に UNHCR を退職後も、政府や国際関係の舞台で  
積極的に活動し、国連人間の安全保障委員会共同議長や  
アフガニスタン支援日本政府特別代表などを歴任。国際協力  
機構 (JICA) の理事長を 2 期務めたほか、小泉純一郎元  
首相が設置した有識者会議のメンバーとしても活躍しました。  
政府関係の仕事に携わったことで、変化をもたらす民間人と  
市民グループの力を知ったと緒方氏は話します。

「私たちは急速に変化する世界に生きています。世界がこれ  
までになく複雑な脅威にさらされている中で、市民社会の役  
割や人びとのつながりが、これまで以上に重要性を増してい  
ます」

最優秀学友会賞は、ロータリー第 1210 地区学友会 (英国)  
に授与されました。同学友会は、定期的にクラブ例会や地区  
行事に参加し、地区内の家庭に絵本を寄贈するプロジェクト  
を実施しています。

## 女性会員が国際女性デーに 人道奉仕のストーリーを紹介

世界の反対側に住む人たちの生活をより良くするために活躍  
する 3 人のロータリー女性会員がいます。彼女たちにインス  
ピレーションを与えるものは何なのでしょう。

世界銀行がワシントン D.C. の本部で 3 月 8 日に主催した「国  
際女性デー」の祝賀行事で、3 人の女性会員がこの質問に  
答えました。

ラジア・ジャンさん、デボラ・ウォルターズさん、アン・リー・ハッシー  
さんは、300 人の聴衆とライブ中継を視聴した何千もの人た  
ちを前に、それぞれの活動 (アフガニスタンでの女子のため  
の学校建設、グアテマラシティのゴミ捨て場に住む人びとへの  
支援、アフリカとアジアでの予防接種活動) にまつわるストー  
リーを紹介し、活動のインスピレーションについて語りました。

「学んでいる子どもたちの顔、権利や夢を求めて立ち上がる  
人たちの姿、特に、不可能だと思われるようなことに立ち向  
かい、夢を持つとする人たちの姿にインスピレーションを覚え  
ます」と話すのは、ダクスベリー・ロータリークラブ (米国マ  
サチューセッツ州) のジャンさんです。

アフガニスタン出身で現在は米国に住むジャンさんは過去数年  
間、アフガニスタンの若い女性や少女たちの生活改善を支  
援する活動を通じて、アフガニスタンと米国の橋渡し役となっ  
てきました。

アフガニスタンの Deh' Subz 群の 625 人の少女が通う学校、  
「ザブリ教育センター (Zabuli Education Center)」の創設  
者で所長を務めるジャンさんは、2015 年にこの学校の第一期  
生が卒業し、近々、女子大学が開校する予定であると話し  
ました。この女子学校では、数学、英語、科学、テクノロジー  
のほか、厳しい社会環境の中で経済的自由を達成するための  
方法も教えています。

ユニティ・ロータリークラブ (米国メイン州) 会員で神経科学  
者のウォルターズさんは、グアテマラシティのゴミ捨て場に住む  
子どもやその家族に教育や社会的サービスを提供する非営  
利団体、「Safe Passage」で長年ボランティア活動をしてきま  
した。

「カヤックのおばあちゃん」としても知られるウォルターズさんは、  
現地の窮状への認識を高めるため、自宅がある米国メイン  
州からグアテマラまで、小さなカヤックで旅したことがあります。  
ポートランドサンライズ・ロータリークラブ (米国メイン州) のハッ  
シーさんは、ポリオ撲滅とポリオ患者の苦しみを和らげるこ  
とをライフワークとしてきました。

自身もポリオサバイバーであるハッシーさんは過去 14 年間、  
全国予防接種日に参加するために、ロータリアンのチームを  
率いて発展途上国を訪れてきました。

ハッシーさんは通常、西洋人をあまり見かけない国 (バングラ  
デシュ、チャド、マリ、ニジェール、ナイジェリア、エジプトや  
インドの僻地など) を活動場所として選びます。このような場  
所ほどニーズが大きく、現地訪問による広報効果が親善こそ  
が予防接種の緊急性を訴える上で大変重要だからです。